

令和6年度 延岡市立旭中学校 学校関係者評価書

〔4段階評価〕

4…期待以上

3…ほぼ期待通り

2…やや期待を下回る

1…改善を要する

	評価指標	今年度の各校務での取組内容	学校の自己評価コメント	自己評価	学校関係者評価	学校関係者の評価コメント
学力の向上	1. 基礎基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習に関しては、宅習をそれぞれの生徒が自由に書いてくるスタイルから、課題を出すというスタイルに変えることで、家庭での学習に取り組みやすくする。 ○ 教科連絡をじぶんログに記入することを徹底する。そのために係活動や班活動を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習において「質」を重視し、教科担任がその時に必要な内容の課題を出している。そのため、授業で学んだことを家庭で復習することができ、基礎基本の定着につながっている。 ○ 課題の提出が滞りがちな生徒には学級担任や教科担任が声をかけ、その生徒に合った取り組み方を提案し、少しでも基礎基本が定着するよう心がけている。 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出が難しい生徒は、それもいたしかないと認識も必要なのかもしれない。 ・延岡市内のみならず県でもトップクラスの学力を目指していた時期からするとちょっと寂しい。保護者も含めて向上を目指してほしい。 ・家庭での学習に取り組みやすくする事で、自らのやる気に繋がっている事が大切である。
	2. 思考力、判断力、表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ そもそも一人一台のタブレットになっていないので、全職員が授業で活用することは現状厳しいが、進んで活用している職員やICT支援員の助けを借りながら、夏休みを中心に研修を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科、必要に応じてタブレットを活用することができた。学習課題に対するまとめをロイロノートで提出したり（社会科等）、調べたことをグループスライドにまとめて発表したり（総合的な学習の時間等）する活動を増やすことで、特に表現力が向上した。 	2.8	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台になっていないことも課題であるが、休み時間や家庭学習においても活用できるようにもっと生徒が気軽に使える環境を整える必要がある。 ・引き続きタブレット導入を進める。 ・タブレット関連の予算をできるだけ付けてもらえるように働きかける。 ・ICT支援員の充実と職員の研修を無理なく進める。 ・思考力、判断力、表現力の育成には、タブレットの利用が役に立っているのか疑問がある。

	3. 指導力の向上	○ 教師側の授業力の向上と思考・判断・表現の場面の設定が必要になるので、主題研で取り組む、学び合い学習や延岡市が力を入れている協調学習の研修を、夏休みを中心に充実させる。	○ 昨年度に引き続き、主題研究で「学び合い学習を活用した授業作り」に取り組んでいる。講師を招き、全職員が学び合いや協調学習について研修を受けることで共通理解を図った。定期的に主題研究の時間を設け、意見交換や情報共有等を通して自分の指導方法を振り返り、指導力の向上に努めた。	3.0		・教える側の授業力の向上が不可欠である。
	4. 学習基盤の整備	○ “ひなたの学び”を“学びの共同体”の考え方にリンクさせながら授業を組み立てるなど、生徒が集中できる指導過程の工夫改善に努める。	○ 学び合い学習を進めるため、ペアやグループ学習を積極的に取り入れ、必要に応じて机をコの字型に配置するなどの工夫を行った。 ○ 共有の学び（全員に達成してほしい内容）、ジャンプの学び（生徒の興味をひくような発展的な内容）を効果的に設定し、生徒が集中できる指導過程を心がけた。	3.0		・ほんの一部の授業しか参観していないが、授業に集中できていない生徒は少なくないようだ。
心の教育の充実	1. 社会性の涵養	○ 毎日の朝の会で挨拶やお礼の言葉などを唱和する取組を行ったり、授業の中でもあいさつや返事が不十分な時はやり直しをさせたりというこれまでの活動を継続する。また、部活動を通してあいさつや返事等のさらなる定着を図る。 ○ 通常の学校行事がほぼ実施可能になったので、職場体験学習や大学訪問などさまざまな行事を通して社会経験を積ませる。 ○ 地域のボランティア活動への参加をうながしたり、地域の方と触れ合う機会を創り出したりするなどして、幅広いコミュニケーションの体験を積ませる。	○ 毎朝、各教室から「おはようございます。」や「失礼します。」といった声出し練習の声が聞こえてくる。その成果もあり、地域の方からも「あいさつしてくれるようになりました。」というお声をいただいている。また、職員室や事務室に用事があって入室する際も、以前より大きな声で「失礼します。」や「先生方、こんにちは。」と言えるようになってきた。 ● 数年間滞っていた行事への参加がほぼできるようになった。現在の中学生にとっては初めて見聞きする行事もあり、十分な取組はできていない。今後、また以前のように充実した活動にしていきたい。 ● 地域ボランティアへの参加は、学級担任を中心によく呼びかけており、積極的に参加する生徒は多い。しかし、中にはまるでお客様のような態度で参加する生徒もおり、どのような気持ちでボランティア活動に参加するべきかという心の面の育成に取り組む必要がある。	3.4	2.9	・コロナ時あいさつをひかえる等、社会性にあつたものを、もとに戻す様な動きが必要。 ・社会に出てからも「あいさつ」は基本。特定の人へのあいさつ➡広くあいさつ。 ・地域の人に会った時等、自分からあいさつすることが厳しいと感じた時、相手からのあいさつ等に返す事を繰り返すことで自主的にできるようになるのではないかと。 ・社会経験は必要であると思う。 ・こちらが挨拶しても返ってこないケースがある。家庭で挨拶の大切さについて教えていないのだろうか。まわりの大人が根気よく働きかけていかなければならないと思う。 ・草刈りや読み聞かせグループの紙芝居作成に協力していただける生徒がいるのは大変嬉しい。 ・地区の方の評価は「あいさつしない」がほとんどです。

					<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とのふれあいに配慮をおねがしたい。 ・活動の継続による定着が図れる事が大事。
2. 自尊感情、人権意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担任と副担任で協力して道徳の授業を実践し、生徒の人権意識を高める。また、学級通信でその内容や生徒の声を保護者にも伝える。 ○ 不登校生徒をこれ以上増やさず、また現在不登校になっている生徒を学校に戻すことができるよう、学校の受け入れ態勢を整える。具体的には、昨年度の本校の研究主題である「学び合い学習を活用した授業作り・学級経営」をさらに進めることで、居心地の良い学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育は、授業はもちろん、日ごろの声掛けでも頻繁に行っており、道徳的心情の醸成は十分にできていると考える。今後は、その気持ちを行動に移すこと（道徳的実践力）を目指していきたい。そして、良い行いがあった時にあらゆる場面で称賛できる学校にしていきたい。 ○ 学びの共同体の取組は昨年度以上に生徒に浸透してきており、「話し合うことや意見を述べるのが楽しい」と考える生徒は増えてきている。今後も、この取組を継続し、取り残される生徒がいない学校、誰もが意見を述べやすく、それをみんなが受け入れることができる学校にしていきたい。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒等、登校させることは難しいかもしれないが、他の支援の人的活用も考えてよいかも。 ・不登校生徒の数が多いうように思う。運営委員会ですることがあれば、ご相談ください。 ・不登校の詳しい現状はわからないが、これ以上の増加につながらなくする事は不可欠である。 	
3. 自己指導能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的生徒指導の視点に立った指導を心がけるとともに、段階的生徒指導を意識し、全職員が共通理解のもと組織的に動き、生徒・保護者・教師でより良い関係をつくる。 ○ 生徒会活動、委員会活動、学級活動、学校行事において、生徒自身による自治的な活動をうながす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校では、何かトラブルがあった時に声を荒げて指導するような旧来の指導よりも、日頃からトラブルにならないような指導を全職員と保護者が連携して取り組んでいる。例えば、校則検討委員会の発足である。学校のルールを生徒たち自らが考え、どのようなルールが必要かを考え、それが守られるように生徒たち自身が自治的に活動するよう促しているところである。 ● 段階的な指導の見直しはこれまであまりできていないので、今年度末から毎年見直しをする必要があると考えている。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・校則に関する動きを典型に良い関係が築けている。 	
4. 人間関係の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上記、本校主題研究をさらに進めて居心地の良い学級・学年作りを心がけ、生徒同士の人間関係醸成を図る。 ○ 家庭環境が複雑な生徒や特性の強い生徒に対しては、学校だけでなくスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、北部地域基幹相談支援センターなど、関係機関と協力して支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校主題研究である「学びの共同体」の取組が生徒に徐々に浸透してきている。この取組をさらに継続し、一人一人が居心地よいと感じられる集団を学級、学年、学校、委員会、部活動などあらゆる場で作れるように支援していきたい。 ○ SCやSSWおよび関係団体との連携は非常に積極的に行っており、良い方向に効果が出ている。今後も積極的に活用していきたい。 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性についての情報を地域の幅広い方から収集しているのは良い。 ・家庭環境の複雑さは不登校等にも繋がっていると思う。 	

健康 安全・ 体力の 向上	1. 体力や運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育授業および体育的行事や部活動などを計画的に実施し、よりたくましい生徒を育成する。 ○ 保体委員会による昼休みの外遊び呼びかけをうながす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業・行事・部活動共に計画的に実施できた。さらに、日頃運動をしない生徒に意欲や興味をもたせる工夫をしていきたい。 ○ 委員会生徒による昼休みの用具の管理や呼びかけを行い、外遊びを促すことができた。 ● 外遊びをする生徒が限られており、用具を適切に扱わないことから使用停止になる期間が数回あった。 	3.4		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒より、旭化成の柔道教室が好評である。 ・移動時のだらだらした姿を見て、駆け足や部活動の活性化をお願いしたい。
	2. 望ましい生活習慣の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性教育を年間計画に位置づけ、養護教諭と連携して実施する。 ○ 手洗いうがいを継続的に呼びかける。 ○ 早寝・早起き・朝ごはんという当たり前の習慣をつけさせるよう家庭に啓発していく。 ○ スマートフォンの望ましい使い方を継続的に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性に関する指導を計画的に実施ができた。今後、時期の見直し等も検討したい。 ● 朝食を摂る習慣のない生徒がいる。 ○ 3年生が参加の学校保健委員会でスマートフォンでのトラブルを取り上げたり、メディアバランスについての掲示を行ったりした。 	3.5	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホについては大きな問題であると考えます。市内で学校や保護者と協同作業でお願いしたい。 ・スマホ利用は家庭のしつけの問題とは思いますが、学校においても取り組んでいただき感謝。
	3. 安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特に防災教育では、地域の方々・保護者の協力を仰ぎながらより良い内容を実施したい。 ○ 交通安全教室や避難訓練（火災・地震・不審者）や薬物乱用防止教室などを計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で地域住民の方々や外部講師と連携し、3年間を見据えて防災学習を実施することができた。 ○ 安全教育について、計画的に実施することができた。避難訓練（土砂災害）については、実施時期を早めにしたほうがよいのではという意見があり、検討が必要。 	3.6		<ul style="list-style-type: none"> ・青パトの巡回による防犯に感謝し、保護者のさらなる理解をお願いしたい。 ・学校での訓練を地域でも訓練に生かしてほしい。地区の訓練への参加がほしい。 ・地域が保護者との連絡を密に行うべきである。
	4. 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級担任と副担任が協力して給食指導を行い準備の時間を短縮することで、十分な食事時間を確保する。 ○ アレルギー除去食については4月中に個別面談を行い、適切に対応する。 ○ 食事マナーについても中学校卒業後の人生まで意識させて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4時間目の授業担、学級担任、副担任など多くの職員で協力して給食指導ができた。 ○ アレルギー対応食については毎回確認を行い、誤食のないように対応をした。 ○ 職員による日々の給食指導に加え、給食委員会の取組として食事マナーを取り上げ、各学級で啓発を行った。 	3.4	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・食の大切さについて知らせていく必要がある。 ・クラスの事については、学級担任や副担任の連携が必要である。
の 育 成 夢・ 自 信・ 誇	1. キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部人材の活用や職業調べ、職場体験学習などを通して、将来の目標や自分の進路を考えるきっかけとなるような活動に取り組む。 ○ キャリア教育支援センターのコーディネーターと連携を図り、各学年の目標に応じた取組を行う。 ○ 各学年の行事に応じて、キャリアパスポートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で総合的な学習の中で、外部の方や地域の方を講師に招いて、将来について考えることができた。職場体験学習は3月に実施予定。 ○ キャリア教育支援センターの方と密に連絡を取り、各学年の目標を達成することができた。 ● 行事ごとにキャリアパスポートを記入すること 	3.6	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に将来なりたい職業を思い描けるのも良いが、まずどういう生き方をしたいのか、何を大切にして生きていきたいのかを考えるのも重要だと思う。 ・積極的に実施されていると思う。

		を工夫する。	ができたが、効果的な活用までは至っていない。		
2. 保護者、地域との連携充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページや学級通信、新聞やケーブルTV ワイワイなどメディアへの依頼、また、正門の掲示板などを活用して、旭中の教育活動を保護者や地域に発信していく。 ○ 薪能やのぼりざるフェスタ、康芝園「ふれあい桜」の草刈りなど、校外へ出るボランティア活動への参加や、校内でできるボランティア活動への参加なども進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページやケーブルTV、新聞などを通して、旭中の保護者や地域へ情報を発信できた。保護者アンケートでは76%肯定的な意見であった。24%があまりそう思われなかった。 ○ 地域学校協働活動推進委員会を中心に、新しい取り組みをすることができた。 ● ボランティア活動への参加意識はあるが、目的や意義を理解せずに、参加意識の低い生徒が一部いた。 保護者アンケートでは、4:14% 3:52% 2:28% 1:6% 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への情報が少ない。門限の変更について、地域の人は知らない事案がきかれます。 	